

丸子修学館高校の手話講座について

丸子修学館高校では、コミュニケーション技術の授業の一環として手話を学んでいます。参加しているのは、福祉科の2年生8名の生徒さんです。

手話の歴史や知識を学び、手話で簡単な会話ができるようになることを目的に、約半年間かけて学んでいます。



写真：教室で講座を行っている様子
皆さん、真剣に、かつ楽しみながら学んでいる様子がうかがえます・・・

写真：家族構成の表し方について学んでいます



【生徒さんの声（アンケート結果から抜粋）】

Q：手話を勉強して見てどうですか・・・？

手話は手の動きや実物を表現して作られていることが分かった。手話は難しくくてできないと思っていたが、やってみると意外とできて楽しい。

Q：実際に役に立ったことは・・・？

- ・授業を受ける前に「ありがとう」という手語を知っていた。新幹線に乗っていた時、メールの使い方が分からず、隣の方に聞いてみたら聞こえない方だった。その時「ありがとう」と手語で伝えることができ、役に立ったと思う。
- ・バイト先で、ろう者のお客様の接客で使えた。

Q：授業の中で印象に残ったことは・・・？

身体障がい者の方たちは、自分たちの何倍も不便な生活を送っていて、自分たちの当たり前は障がい者の方たちにとっての当たり前ではないという事。なので、このことを生かせるように手話の勉強などを頑張ろうと思った。

【講師の先生からひと言（アドバイス）】

聴者からすれば、手話は自分たちには全く無縁なものと感じるかもしれませんが、手話はろう者のための言語ではありません。聴者が手話を覚えると、お互いに声で会話ができない場面や風邪を引いて声が出ない時などで聴者同士でも会話ができます。その時、手話を学んでよかったと思えるはず。学んだ手話を忘れずに生かしてほしいです。

保健福祉事務所では、将来を担う若い世代の皆さんに、手話によるコミュニケーション技術を学んでいただき、日常の生活や福祉をはじめとした様々な分野で活用していただけるよう、これからもサポートしていきます。